



The parties concerned' comments

ドラマとドキュメンタリーを
交錯させる、新旧混在の
ノスタルジックなまち並み

テレビ西日本 編成制作局制作部
濱田俊彦さん

実際にはない大名3丁目を設定し、また一般の若者をキャストिंगして、ドキュメンタリータッチで物語を展開していきました。新旧が入り交じった大名のまちは、現実と非現実を巧みに交流させ、若者たちの光と影の部分を浮き彫りにするのに役立ちました。

「Blue Film ～大名3丁目光荘」
TNC福岡発深夜ドラマ
2002.4.18～2003.3.27
演出 田島保男
出演 内山敬太(ケイタク)・川崎彰 他



おしゃれな若者たちが行き交い、刺激的なエネルギーに満ちた大名のまちは、まさに青春の象徴。ドラマの中では、この場所にある光荘というアパートに住む6人の若者たちが、夢の実現に向けて日々葛藤を繰り返す様子が描かれている。



写真提供：NHK 連続テレビ小説「走らんか！」

今もなお、昔の博多ならではの雰囲気が残る普賢堂町の小路は、「走らんか！」に登場した場所として有名。かつては浪曲師などが多く住んでいた芸人町だったという。博多の人情を伝えるのに相応しい下町風の景観が、作品をイキイキとさせた。

「走らんか！」
NHK朝の連続小説
1995.10.2～1996.3.20
原案 長谷川法世
脚本 金子成人
出演 三国一夫・中江有里 他

ドラマ

景観も主役、福岡発ドラマ

多くの人にとって、映画よりもっと身近なテレビドラマ。美しい自然と表情豊かなまち並みは、数々のテレビドラマの舞台となってお茶の間に登場してきた。いつもの見慣れた景観が、ストーリーとともに印象に残る。



福岡フィルム・コミッションの本格的海外支援映画の第1作となるマレーシア映画。『ビル』の裏手に神社が残っていたり、コンビニの前に屋台が並んでいたりと、福岡の街はアジアの都市に似ています。ロケ地となった川端商店街はまさにそうと、脚本を手がけた窪田夫妻。

「相模ら！」
監督 アフドリン・シャウキ
出演 インティラ・シャロンブラ 他
公開 マレーシアにて公開済・日本公開未定
福岡での主な撮影場所 上川端商店街 他



若い主人公たちが福岡の病院から脱走し、九州を旅するロードムービー。回想シーンや逃亡シーンで「キャナルシティ博多」や「マリゾン」が登場する。人があふれ、活気に満ちた景観が、逃亡シーンにリアル感を醸し出している。

「逃亡くそたわけ-21才の夏」
監督 本橋圭太
出演 美波・吉沢悠 他
配給 シネハウス
公開 2007.10.6
福岡での主な撮影場所 百道浜 他

演劇

主役は福岡の景観
人間が出ないヒューマンドラマ

福岡天神のビルや乗り物をキャラクター化し、ユーモラスに感動的に描く芝居で人気の『ギンギラ太陽』。福岡にこだわったユニークな舞台は、福岡はもちろん、東京での評価も高い。その功績が認められ、2007年福岡県文化賞(奨励部門)を受賞した。



ギンギラ太陽'sの代表作「天神開拓史」。福岡大空襲を背景に、必死に街を支えた福岡の百貨店が主役。大正から平成までの流通史を、笑いと涙で描く壮大な物語。



新規参入したスカイマークを主人公に航空業界を舞台にした「翼をくださいっ!」さらばYS-11」。今は無くなった雁ノ巣飛行場、引退が決まったYS-11など、「空への熱い想い」を持った方々を描いた感動物語。東京公演でも大喝采を浴びたという。

The parties concerned' comments

魅力的で進化し続ける
天神がある限り僕らの
物語も続いていきます

ギンギラ太陽's主宰
大塚ムネトさん

僕らの舞台は建物や乗り物しか登場しませんが、それぞれが何千、何万という人の思いを背負っている。実は、壮大な人間ドラマなのです。劇団を旗揚げして10年、天神の景観はその様相を随分と変え、その時々々の「天神の今」を題材にしてきた僕らの舞台も、今や歴史です。天神がある限り、これからも僕らの舞台は続きますし、天神の歴史を伝えていく「語り部」としての責任を感じています。

「ギンギラ太陽's」
1997年結成。主宰・大塚ムネトの徹底した地元取材による情報源に基づき描かれた脚本で、「建物」や「乗り物」を擬人化した物語を届ける「かぶりモノ劇団」。



「空の大怪獣ラドン」
監督 本多猪四郎
出演 佐原健二・平田昭彦 他
配給 東宝 公開 1956

ラドンの標的になったのは、公開当時はまだ数少なかった天神のビル街。この映画で福岡市の天神は、全国にその存在を知られることになったが、店が潰されるシーンに店主の中には複雑な思いを抱いた人もいたという。



©2006「出口のない海」フィルムパートナーズ

「出口のない海」
監督 佐々部清
出演 市川老蔵・上野樹里 他
配給 松竹 公開 2006.9.16
福岡での主な撮影場所 九州大学(箱崎キャンパス理系地区)

太平洋戦争を題材にしたこの映画では、赤レンガの門が威厳を感じさせる九州大学箱崎キャンパスで、海軍対潜学校のシーンが撮影された。戦前の貴重な建築物である重厚な造りの門柱が、映画に活かされている。